

電子ジャーナル(=EJ)が普及し、電子媒体ならではの利便性を実感している方も多いと思います。今号ではEJのメリットとデメリットに注目します。

EJのメリットは、何といても速報性です。世界中のどこでも発行と同時に最新号を読むことができ、図書館の開館時間や貸出中などにも左右されず、24時間いつでも利用できます。相互リンクもWeb特有の画期的なメリットで、データベースでの検索結果から個々の文献へ、またその参考文献、関連文献や関連情報のサイトなどへもワンクリックで辿り着くことができます。興味ある論文を見逃さないためには、アラート機能を利用して、最新号の目次配信や、保存した検索式に該当する論文を通知させるなどの設定をするとよいでしょう。図書館側としてもEJでの提供は、製本や保存書庫の確保が不要であり、欠号や乱丁落丁といった不具合が生じないというメリットがあります。

一方、デメリットは、契約を中止した際、それまでのバックナンバーへのアクセスが保証されない場合があることや、インターネットの不通時には全く利用できなくなること、パソコンの環境も相応にメンテナンスしなければ閲覧できない状況に陥ること、などが挙げられます。また、購読誌の場合、バックナンバー分は別料金となっているものや、出版社の方針で他機関への複写提供を制限しているものがありますし、フリー雑誌の中には、一定期間を経過しなければ最新号が閲覧できないものがあります。Open Access誌(第5号参照)の場合は、著作権は著者に帰属するため、同じ号でも全文が見られるものとそうでないものがあることにご注意ください。最近ではEJのみで提供する記事も増えていますが、電子版があるからといって、すぐにプリント版の中止に踏み切れない理由はこんなところにあります。

プリント版は、手にとってめくっていることで思いがけない記事を見つけるという偶然性が期待でき、また移動しながらも読めるなど、捨てがたい利点があります。近年、雑誌の出版状況が急速に変化していますが、利用する側は、EJとプリント版それぞれの特徴を理解した上で活用されるとよいでしょう。

#### \*\*\*図書館トリビア\*\*\*

PubMedの検索結果で、巻号・ページ部分に書かれてある [Epub ahead of print]は、プリント版の出版を待たずにオンラインで先行公開されていることを意味します。投稿から査読、レイアウト、校正に至るまでWeb上で行われる時代、速報性を重視し、校了と同時に公開される論文が増えました。

出版社のサイトでは、「Online First」「Early View」「Article in Press」などの項目に掲載されています。プリント版の“in press”と同様、ページが決まるまでには、数週間から数か月を要しますので、本学で電子版を契約していない雑誌の場合は、入手に時間がかかることがあります。

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 unyo@lib.iwate-med.ac.jp まで。